

比和の秋を満喫

第28回比和やまびこ祭・10/22

No.1

第28回比和やまびこ祭が好天の下、4年ぶりに比和総合運動公園で開催され、多くの来場者でにぎわいました。

当日は比和小児童による合唱や鼓笛演奏、比和中生徒による比和牛供養田植、南一誠さんのコンサートなど多くのイベントが行われました。

また元トライアル全日本チャンピオンの成田匠さんと現役国際A級ライダーの伏見裕貴さんのトライアルスーパーデモ（バイクパフォーマンス）では、バイクを使った華麗な技に多くの歓声が上がリ、この日一番の盛り上がりを見せました。

実行委員長の若林隆志さんは「ことは、多くの来場者があり、比和に元気が取り戻せた」と笑顔で話しました。
※トライアル

高低差や傾斜が複雑に設定されたコースを、オートバイに乗ったままで走り抜けることができるかを競う競技。



▲比和小児童による鼓笛演奏



▲バイクのパフォーマンスを披露

地域の文化に触れる

2023 高野町文化祭・11/5

No.3

高野町文化祭実行委員会主催の「2023 高野町文化祭」が上高自治振興センターで開催され、約300人の来場者でにぎわいました。

ステージ発表は、高野保育所園児のダンスや文化協会構成団体によるお茶・詩吟・大正琴、地元バンドの演奏、ダンスグループDA FLY CREWのパフォーマンスなど盛り沢山の内容でした。

また本年は、地域の文化を知ってもらおうと「湯川地区秋祭りの子供奉納太鼓」が披露され、祭りの衣装で着飾った8人の子どもたちに拍手が送られました。

実行委員会事務局の奥田久美子さんは「多くの人に見てもらえて良かった。今後も練習成果を発表できる場として、文化祭を続けて行きたい」と話しました。



▲湯川地区秋祭りの子供奉納太鼓を披露する子どもたち

認知症を考えるきっかけに

デイサービス利用者がしおりを児童に贈呈

No.2

庄原市デイサービスセンター第二相扶園の利用者が、認知症支援キャラクターが描かれたしおりを作成し、永末小児童へプレゼントしました。

これは、10月12日に行われた「認知症サポーター養成講座」を受講した4年生16人に贈られたもので、認知症について関心を持ってもらい、講座の内容を振り返るきっかけになってほしいという思いが込められています。しおりは、同施設の利用者が一枚一枚丁寧に色を塗り、一日かけて仕上げました。

受け取った児童は「しおりをもらってとても嬉しかった。高齢の方が色塗りを頑張ってくれたから、私たちもできることをしていきたい」と話し、後日お礼の手紙を届けました。



▲もらったしおりを見せ合う児童



▲作成されたしおり



安全運転を呼び掛ける

認知症サポーター養成講座・10/20

No.9

市内のケアマネジャーや介護職員などで構成する「キャラバン・メイト」が、「認知症サポーター養成講座」を開催し、東城中1年生の54人が受講しました。

講座は、認知症の原因や症状などを講義や寸劇で紹介されました。

また、実際に認知症と診断された渡邊さんが、診断を受けたときのエピソードや生活の中で工夫していることなど、実体験に基づいて話しました。

講座の最後には、渡邊さんへの質問コーナーも設けられ、受講した中学生は「認知症は身近な病気で、薬や自分たちの接し方で良くなることが分かった。日頃から、高齢者には優しく接しようと思う」と話しました。



▲講義を行う「キャラバン・メイト」のメンバー

豊かな人間形成を願って

大型絵本や図鑑、玩具を寄贈

No.8

公益財団法人浦上奨学会から、市内の保育所や幼稚園、子育て世代包括支援センターなどへ、大型絵本や図鑑、玩具などが寄贈されました。

同会は、リョーピ株式会社創業者により設立された団体で、「未就学児の豊かな人間形成」を願い、保育施設や子育て支援施設などに、本や玩具を寄贈する活動を行っています。寄贈品は、各施設で大切に使用され、子どもたちの想像力、思考力、知的好奇心、探求心の育成につながっています。

寄贈を受けた峰田保育所の谷川成美所長は「子どもがたくさんの本に出会える機会を作っていただき、大変うれしく思う」と話しました。



▲支援センターへ寄贈された玩具

▲大型絵本の読み聞かせ

県内のドルフィンたちが競う

「水夢」フェスティバル水泳大会・10/29

No.11

西城温水プール「水夢」で、4年ぶりの開催となる「第18回西城温水プール『水夢』フェスティバル水泳大会」が行われ、県内の子どもから大人まで約100人が参加し、個人種目やリレーなど13種目でスピードを競いました。

開会式では、さぎりスイミングクラブの石田優馬さんが「諦めずに最後まで泳ぎ切ることを誓います」と大きな声で選手宣誓。競技が始まると、選手は言葉どおり全力で泳ぎ切り、日ごろの練習の成果を十分に発揮しました。

審判長の金山佳生さんは講評で「選手の皆さんが、これからも水泳を愛して、楽しい水泳生活を送ってほしい」と話しました。



▲幼児による「12.5メートルビート板キック」

久しぶりの開催

帝釈もみじまつり・10/29

No.10

帝釈自治振興センターで、4年ぶりに「第16回帝釈もみじまつり」が開催され、県内外から多くの人が集まりました。

会場に設けられたステージ「楽の広場」は、永江太鼓保存会のにぎやかな太鼓の音から始まり、比婆荒神神楽の舞やAKT36による歌、神石踊り娘隊きらきら星による踊りなどで盛り上がりしました。

屋台「食の広場」では、新そば、ドジョウの唐揚げ、アマゴ・鮎の塩焼き、サツマイモの天ぷらなど、帝釈の住民が心を込めて作った料理が振る舞われました。

来場者は「紅葉も見ごろになり楽しく過ごすことができた」とうれしそうに話しました。



▲永江太鼓保存会による演奏

西城の魅力をつぶり楽しむ

西城新そば祭り・11/12

No.5

備後西城駅前で、芸備線・木次線利用促進協議会西城地域チームによる「西城新そば祭り」が開催され、約500人が集まりました。

「西城新そば祭り」は毎年の恒例行事で、西城で本年収穫された新そばを求めて多くの人が集まりました。さらに、西城紫水高校、西城中学校、西城小学校がコラボレーションしたマルシェも開催され、西城産のスイーツや野菜などの販売が行われました。

その他、西城自治振興センターで「第11回西城フォトコンテスト」受賞作品の展示や、ウイル西城で鉄道コレクション特別展示会も開催され、芸備線・木次線や、西城の魅力をつぶり楽しむ一日となりました。



▲新そばを求めて多くの人が来場

街道が丸ごとギャラリーに

東城まちなみぶらり散歩ギャラリー・11/3～6

No.7

街道東城路（東城市街地）で「東城まちなみぶらり散歩ギャラリー」が開催されました。

約600メートルの街道沿いにある商店や民家では、展示品や手作りの雑貨などが並び、着物の観光客などが東城のまちなみを楽しみました。

初日のオープニングセレモニーでは、東城保育所園児によるお通りを模した「わんぱくお通り隊」が披露されたほか、東城中学校吹奏楽部や地元バンドの演奏が行われました。

また、期間中東城中学校・東城高校生徒のボランティアガイド「東城応援隊」が、観光客へ見どころを案内。観光客は「ただ見るだけでなく、その土地・地域の事を知れてより楽しむことができた」と話しました。



▲街道沿いに展示された「お通り」の衣装と母衣

優勝目指して大熱戦

ラージボール卓球大会・11/12・13

No.4

庄原市卓球協会が主催する「第11回庄原さくらオープンラージボール卓球大会」が総合体育館で開催され、市内外から約180人が参加しました。

ラージボール卓球は、通常より大きいボールと専用のラケットを使う卓球競技で、初心者から楽しめます。大会は2日間行われ、ダブルスや団体戦など多くの試合が行われました。

参加者は全員が真剣に競技に取り組み、激しいラリーや連携したチームプレイなど、白熱した試合を繰り広げました。

参加者は「この大会の開催を毎年楽しみにしている。今後も優勝を目指して頑張りたい」と話しました。



▲白熱したラリー

元気いっぱい「火の用心！」

防火パレード・10/31

No.6

口和町永田で三次消防署口和出張所主催の「防火パレード」が開催され、聖慈保育所とみどり園保育所の園児30人が参加しました。

パレードは消防車を先頭に隊列を組み、保育所園児で結成する「幼年消防クラブ員」が、火消しの法被姿に身を包み、拍子木を力いっぱい鳴り響かせながら、大きな声で火災予防を呼びかけました。

沿道の観客は「このパレードで、子どもたちの元気な姿を見ると、火災が発生しやすい時期になったと実感して注意することができる」「子どもから元気をもらえるし、防火意識も啓発されるので、大変良いイベントである。火事は怖いので気を付けていきたい」と話しました。



▲消防団員と防火と安全を願って行進する保育園児